

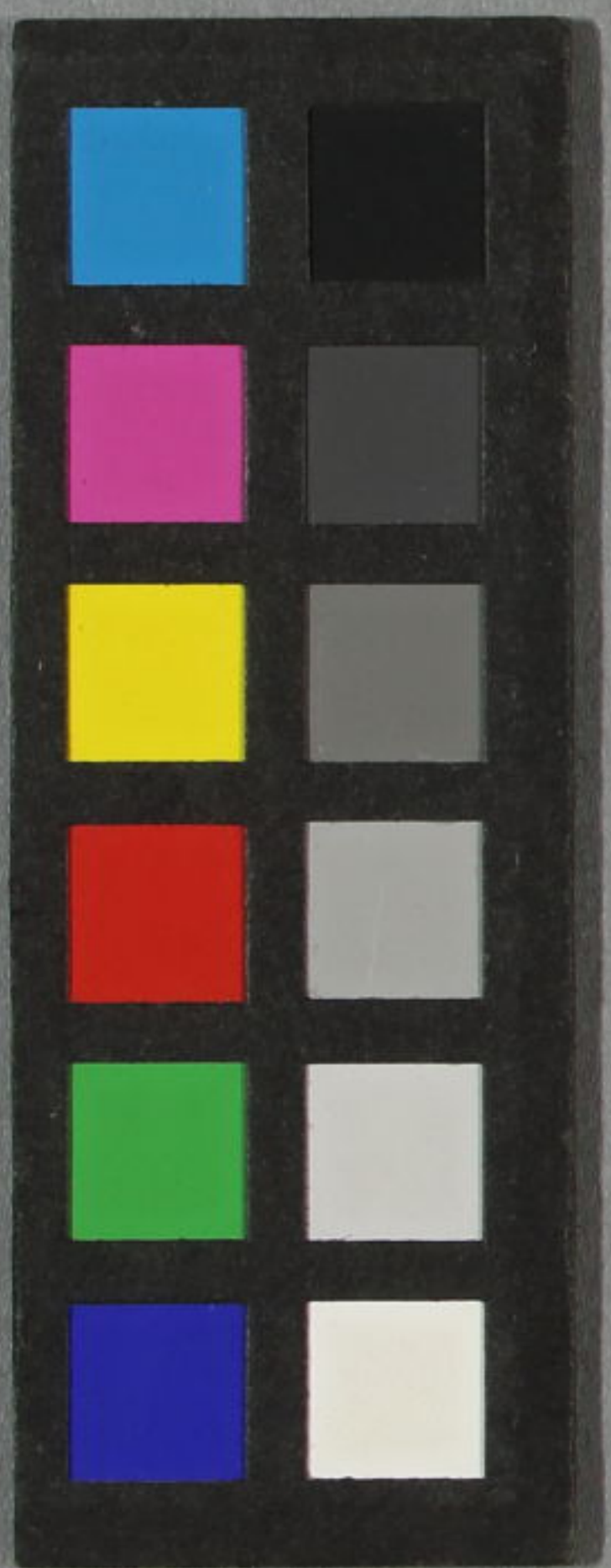
3
4
5
6
7
8
9
30
1
2
3
4
5
6
7
8
9
40
1
2
3



歌川國虎画
十返舎一九作

前編

天袖記



~13
3859
1

13
3859
卷 1

卷之一

菅原流清書單紙序

近頃の裨史。俱不戲場狂言。據て編る是。児童の見安。くん
か為なり。仍て今。菱系侍振。子習。鑑といふ。音曲。奉と種。とて。
其名。紙あり。うめを。實。亥。八。貝。系。系。系。の。書。み。り。ら。き。を。著。者。と。し。て。
け。御。神。の。聖。徳。今。み。の。て。盛。ん。ふ。き。は。さ。る。は。と。て。世。の。人。の。知。る。不。也。
その。あ。ま。りの。書。み。も。し。て。孫。し。ら。れ。と。書。肆。を。り。み。と。し。て。需。る。不
ま。り。て。い。ふ。卷。の。ま。じ。し。ら。れ。と。書。肆。を。り。み。と。し。て。需。る。不
ま。り。て。い。ふ。卷。の。ま。じ。し。ら。れ。と。書。肆。を。り。み。と。し。て。需。る。不
ま。り。て。い。ふ。卷。の。ま。じ。し。ら。れ。と。書。肆。を。り。み。と。し。て。需。る。不

正富風月才
現視和漢行
神人鬼没蹟
飛生鳥梅香

右題菅宮

十返舎一九誌
幽齋



夢中
有神
將襲
奇兆

勅
海國
王
楊玉帝



菅原丞相
通實卿

天
相
天
相
天
相

梅の
神

東風ふく
とる
白ひ
かしく
かろ



風前在
然梅干
點上無
溪月一
痕





本綱鷄者能替時也在
 卦屬巽在星應昂其鳴
 也知時刻其棲也知陰
 暗無外腎而虧小腸凡
 人家無故而群鷄夜者
 謂荒雞主不祥



月よその神と

いのりて

あつ夜まふ

いよりの

十返舎

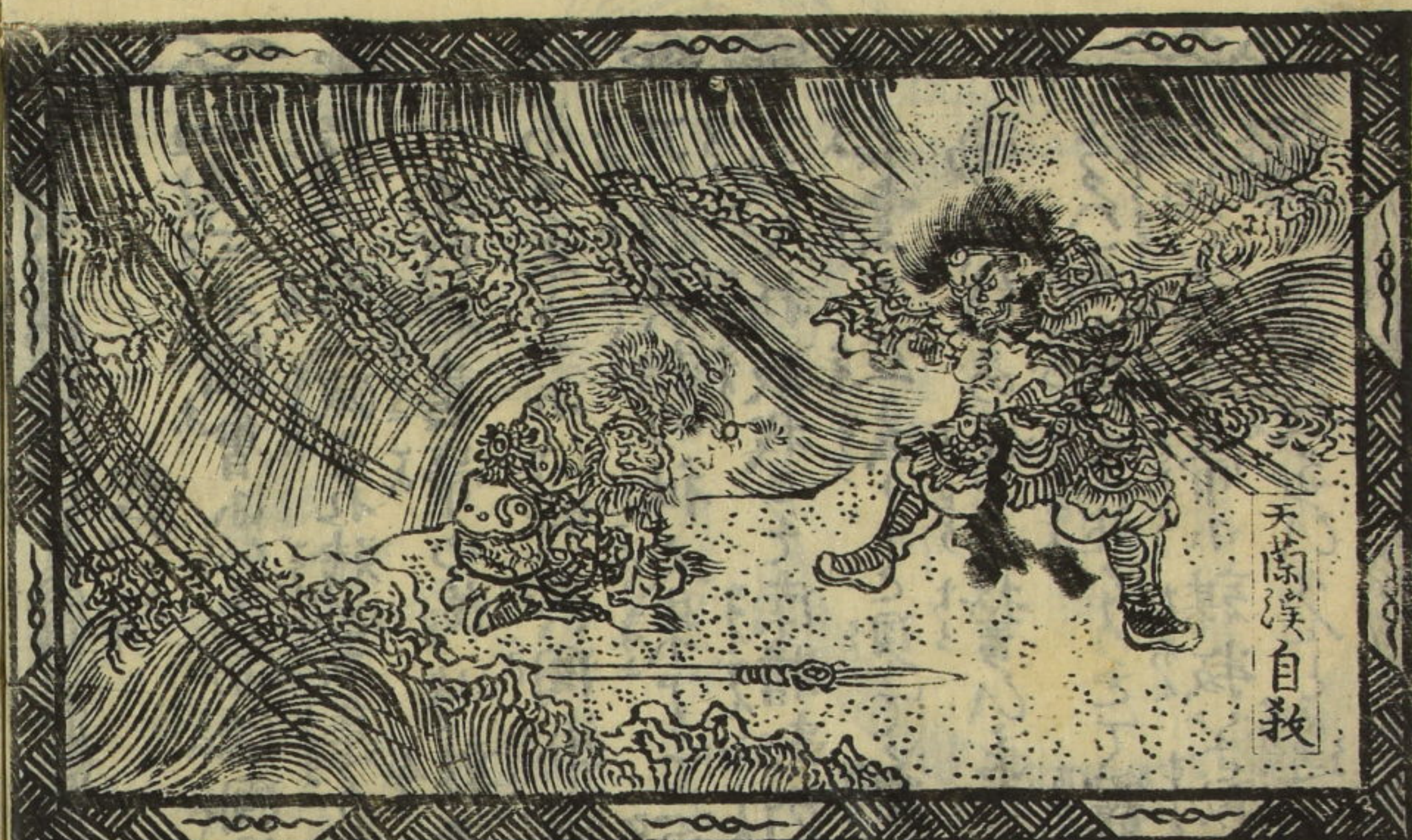
一九

春藤玄蕃

跋端

和漢三才圖會のいふ渤海國ハ高麗の部類なり先年高麗新
 羅の爲小滅され残黨集りて渤海國と號せと云日本皇統六
 十九代延喜帝の御時執政の臣小笠原の丞相通實公といふ
 ありまゝるふけ時異國渤海の揚玉帝或夜不思議の夢と見え
 其相異相の神人來りて百花並の好花木と所望ふ及び遽て
 一枝と折取我こそ南瞻部州大日本笠原の丞相通實なりと自ら
 名きて立去しと見て夢覺りて我國に梅ととも小笠原んし
 渤海代々の帝王誓ひまゝる梅なりとて燕中よりとも折とて
 不吉の先兆なりとて寵臣丞相天竺漢といふの忿怒の
 形相と顯し帝小謀叛を勸まり自ら大將と成て数万の軍兵と
 從へ日本と攻むべんとて造小洋中小船とて博多の浦ふぞ著

二之卷



つらなるけ付御小神風吹来りて逐浪どうら海
 海の兵船こくく破れをりて軍兵一人もの
 らむ海底ふまろく失ぬ大將天蘭漢むね
 神魂どうらぬきあやるといふもせんさか
 浪ふゆりてひららの波よふ攀のちりと
 續いて其子天童鬼足とたさけて介抱す
 小天蘭漢の其身はるきて進退さるる
 天童鬼ふ遺言して自殺し早ぬ死
 期の一念悪鬼となり一圓の安火とともふ
 東どうして死さしかそうして後ふ其體あり
 るとぞ御小島國の兵船かくの如く狼狽
 下は是伊勢の神風なりと風神の舟を
 建號風宮とらひ侍入神國妙用の奇表
 再ニかゝる莫あらざるもさむむハ

五





